



令和 3 年 4 月 26 日
秋 田 大 学

秋田大学が新型コロナウイルス感染症による 県民のメンタルヘルスへの影響に関する 調査結果をまとめました

秋田大学（学長：山本文雄）は、令和 2 年度、県内企業の従業員を対象にしたアンケートの実施を通じて、新型コロナウイルス感染症が県民のメンタルヘルスに与えた影響を測る調査を行いました。

本調査は、秋田県の地域自殺対策事業費補助金の補助を受けた取組の一環として、秋田県商工会議所連絡会に協力いただき、秋田大学自殺予防プロジェクトチームが実施したものです。

調査期間は令和 2 年 11 月から令和 3 年 3 月までで、県内 6 商工会議所の会員約 100 社に対し、各社 10 名程度の従業員によるアンケート調査回答を依頼しました。従業員には、期間内に 3 回、Web 上でアンケートに回答してもらいました。

このたび、その調査結果をまとめましたので、公表いたします。

【調査結果の概要・ポイント】

	1 回目調査	2 回目調査	3 回目
調査時期	R2. 11. 2～11. 18	R2. 12. 14～12. 28	R3. 3. 1～3. 14
有効回答者数	591 人	398 人	309 人
この 1 ヶ月間それ以前に比べて、家族の収入が減った	17. 1%	17. 3%	12. 6%
新型コロナウイルスの影響で経済的に困ることがあった	21. 8%	18. 6%	18. 4%
この 1 ヶ月間「死にたい」と思ったことがあった	5. 6%	5. 3%	3. 9%
この 1 ヶ月間「自殺すること」を考えたことがあった	2. 0%	2. 3%	1. 3%

※その他詳細は別途資料のとおり

調査・分析の結果は、秋田県及び秋田県商工会議所連合会と共有し、今後の効果的な支援策を検討するために活用します。

また、秋田大学では、自殺予防・対策に関する教育研究及び事業推進の実施拠点として、今年 4 月に自殺予防総合研究センターを設置し、秋田県の自殺者数減少を目指して、今後も各種取組の実施を計画しています。

【調査に関する問合せ先】

秋田大学 自殺予防総合研究センター 副センター長
大学院 医学系研究科 保健学専攻 准教授 佐々木 久長
電話：018-884-6506
研究者情報：https://akitauinfo.akita-u.ac.jp/html/152_ja.html

**新型コロナウイルス感染症の影響調査
～県内勤労者の生活および心身の健康について～
結果報告書**

**秋田県商工会議所連合会
秋田県
秋田大学自殺予防総合研究センター**

2021年4月

1.研究の目的

本調査は、新型コロナウイルス感染症が、秋田県内の勤労者の生活や心身の健康にどのような影響を与えているかを明らかにすることを目的として行ないました。また勤労者の希死念慮や自殺念慮の実態を把握し、勤労者を対象にした自殺予防対策のあり方を検討する基礎資料を得ることも目的としました。

2.研究の方法

1)対象者

秋田県商工会議所連合会に所属する事業所 100 社の従業員約 10 名ずつ、計 1,000 名。

2)調査内容

- (1)基本的属性〔性別、年代、勤務先所在地-商工会議所、業種、居住地-保健所単位〕
- (2)生活に関する質問〔新型コロナウイルス感染症による経済的影響、相談・援助希求行動〕
- (3)身体的健康に関する質問〔主観的健康観、身体的不調の有無〕
- (4)心理的健康に関する質問〔主観的健康観、抑うつ尺度:K6・二質問法、希死念慮〕
- (5)新型コロナウイルス感染症に関する質問〔被影響状態、個人的対策、今後の見通し〕

3)調査方法

Web 調査によって実施しました。

4)調査時期

1 回目:2020 年 11 月 2 日～18 日、2 回目 2020 年 12 月 14 日～28 日、3 回目 2021 年 3 月 1 日～14 日の 3 回実施しました。

5)倫理的配慮

本研究は「秋田大学保健学倫理審査委員会」に研究計画書を提出して承認を得て行ないました。調査内容・方法において、個人を特定する情報は扱っていません。

3.結果-1)基本的属性(1) (回答者数・性別)

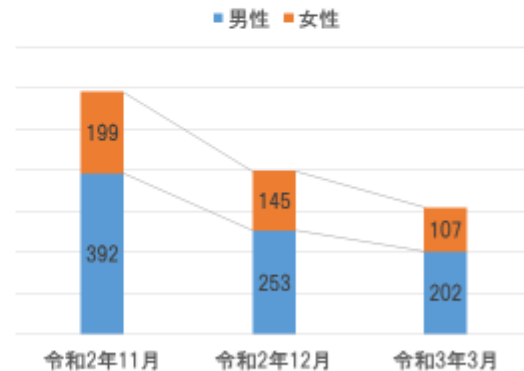
回答者数は1問でも回答した人の人数です。
有効回答者は、全ての質問に回答した人で、
今回は有効回答者を分析の対象にしました。

回答者数は減少していますが、男女比
に変化はありませんでした(p=.670)。

1回目 761人 (内有効回答者591人)

2回目 481人 (内有効回答者398人)

3回目 340人 (内有効回答者309人)



1回目は75%を超えていた回収率が、2・3回目は大きく減少していました。今回は比較することを目的としていたため、同じ質問に回答してもらいました。特に1回目と2回目の間隔は1ヶ月もなく、回収率が減少した理由の一つだと考えています。

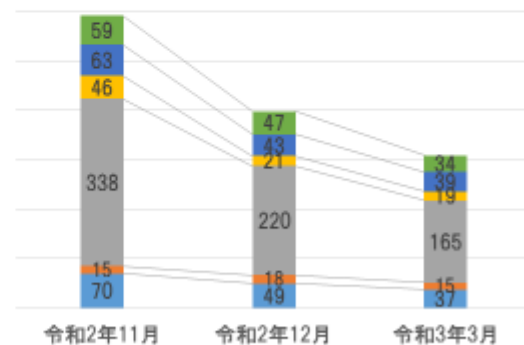
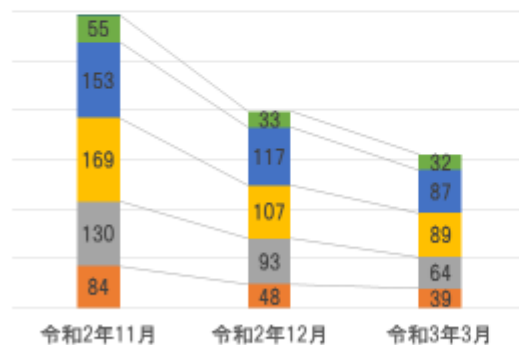
3.結果-1)基本的属性(2) (年代・所属商工会議所)

回答者数は減少していますが、年代比
に変化はありませんでした(p=.886)。

回答者数は減っていますが、所属商工会議所の
比率に変化はありませんでした(p=.580)

■ 10・20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60・70代以上

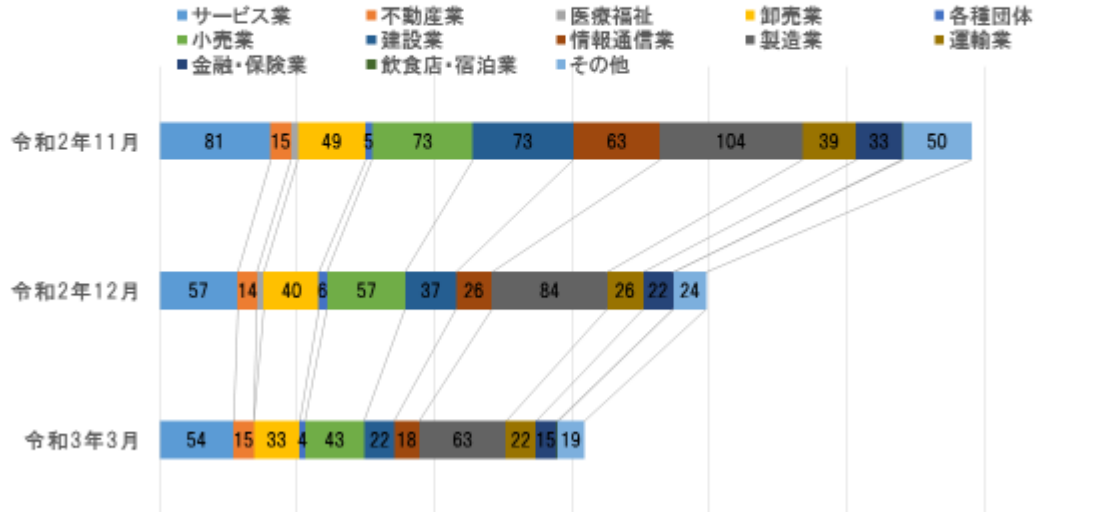
■ 大館 ■ 能代 ■ 秋田 ■ 大曲 ■ 横手 ■ 湯沢



回答者の年代では40代・50代が多く、60・70代以上が少なくなっていました。今回の調査がWeb調査(スマートフォンからの回答)であったことが高齢の方の回答が少なかったことにつながったかもしれません。所属商工会議所は、実際の所属事業所数の割合を参考に割り振りました。

3.結果-1)基本的属性(3) (業種)

回答者数は減少していますが、業種の構成比に変化はありませんでした(p=.135)

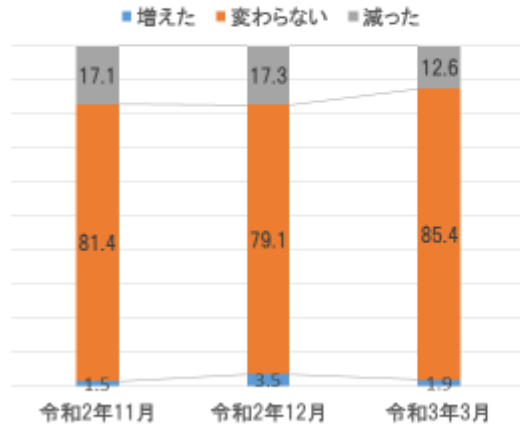


性別・年代・所属商工会議所・業種の割合について、1～3回目の間に変化はありませんでした。このことは、回答者数は減っても、回答者の基本的属性には変化がないことを意味しています。このことは、各質問について、1～3回目の調査で回答の割合に変化があるかを分析する根拠になります。

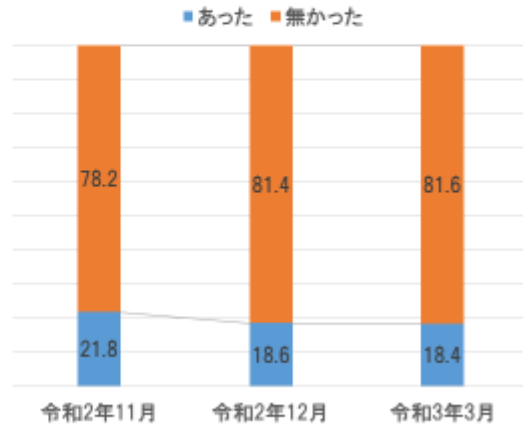
1～3回目に変化があるかは「 χ^2 検定」という統計手法で確認しています。文末の(p=***)
が5%未満であれば「有意な関連性がある」と解釈し、1～3回の回答に違いがあると分析します。

3.結果-2)生活に関する質問(1)収入の変化・経済的に困る

「この1ヶ月間、あなたのご家族の収入に変化はありましたか」(p=.081)。



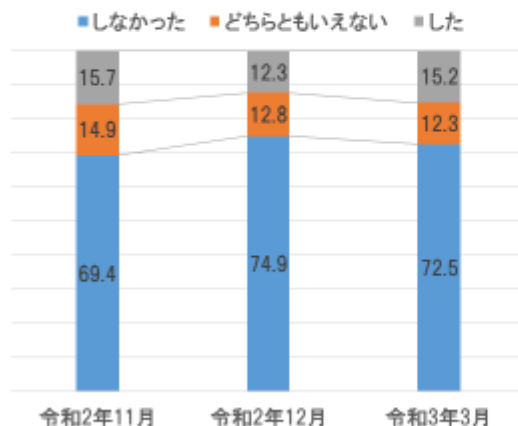
「新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困ることはありましたか」(p=.335)



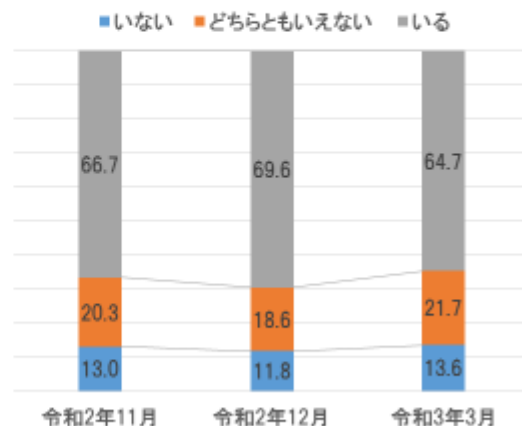
調査時点までの1ヶ月間、ご家族の収入が11月、12月は約17%の方が減ったと回答していました。新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困った人も20%前後いました。3回とも経済的に困ることがあったと回答した人の約50%が家族の収入が減ったと回答していました。

3.結果-2)生活に関する質問(2) 相談・相談相手

「この1ヶ月間、あなたは生活上の悩みについて誰かに相談しましたか」(p=.361)。



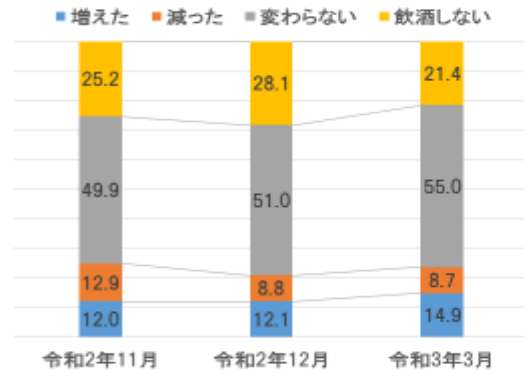
「現在、あなたには気軽に相談できる人がいますか」(p=.740)



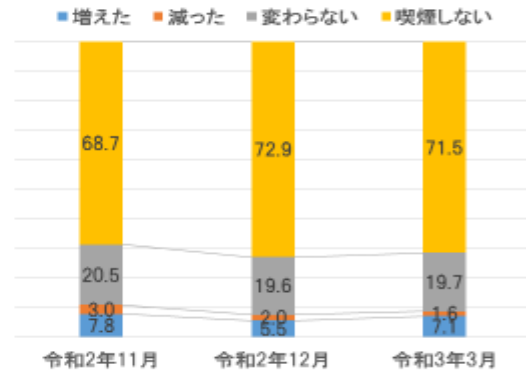
気軽に相談できる人が「いる」と回答したのは全体の約2/3でした。実際に相談した人は約15%でした。

3.結果-2)生活に関する質問(3) 飲酒量・喫煙量

「この1ヶ月間、それ以前に比べて飲酒量に変化はありましたか」(p=.095)。



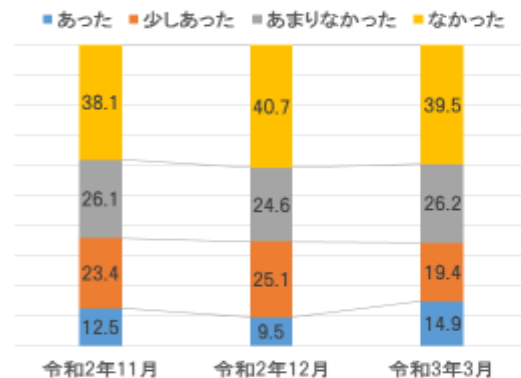
「この1ヶ月間、それ以前に比べて喫煙量に変化はありましたか」(p=.599)



調査時点までの1ヶ月間、飲酒量・喫煙量が増えた人はそれぞれ1割程度いました。飲酒や喫煙はストレス対処の方法で、自分の欲求を満足させることでストレスの軽減をはかる方法で、今までの研究では「他人に当り散らす」と同じ行動に分類されています。

3.結果-2)生活に関する質問(4) 雇用の不安

「この1ヶ月間、それ以前に比べて雇用に関する不安を感じることはありましたか」(p=.286)。



新型コロナウイルス感染症の影響で経済的に困ることがあった人と無かった人の比較 (p<.001)。1~3回を合計して分析。

	あった	無かった
家族収入が減った	50.4%	7.5%
雇用の不安あった	11.3%	7.0%
相談した	23.1%	12.4%
相談相手いる	55.8%	69.9%
飲酒量増えた	21.9%	10.4%
喫煙量増えた	16.2%	4.6%

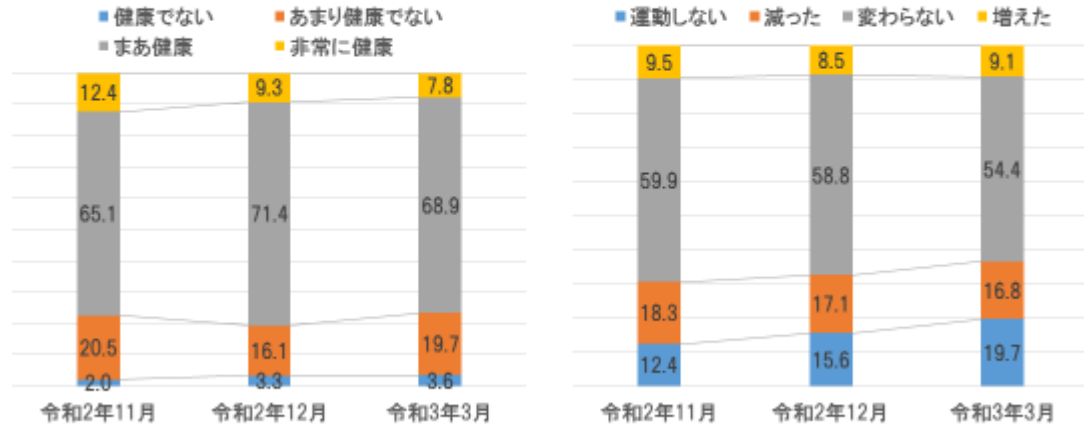
経済的に困ることがあった人の半数は家族の収入が減っていました。飲酒量・喫煙量が増えた人の割合は困ることが無かった人よりも多くなっていました。

調査時点までの1ヶ月間、1割前後の人が雇用に関する不安があったと回答していました。経済的に困ることがあった人と無かった人を比較したところ、あった人の半数が実際に家族の収入が減っていて、1割以上の人が雇用不安を感じていました。相談した人は1/4で、相談相手がいる人の割合は無かった人よりも少なくなっていました。飲酒量が増えた人の割合は2倍、喫煙量が増えた人の割合は約4倍でした。収入の減少を相談する人は多くありませんでした。飲酒・喫煙でストレスを発散することが多いことがわかりましたので、身近な人の飲酒・喫煙量の変化に気をつけることで悩みに気づくことができるかもしれません。

3.結果-3)身体的健康に関する質問(1) 主観的健康観

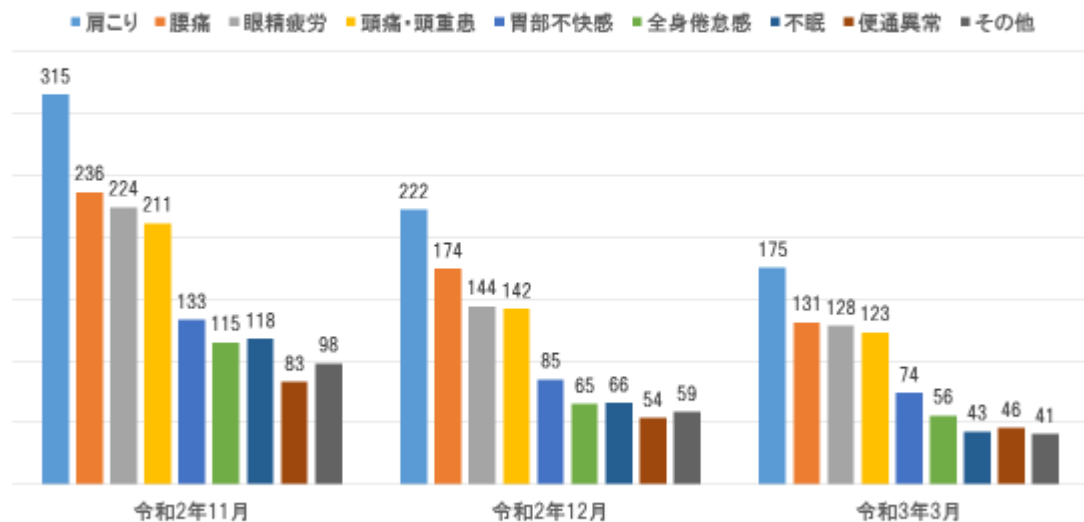
「この1ヶ月間、ご自分のお身体は健康だと思いますか」(p=.092)。

「この1ヶ月間、あなたの運動量(仕事も含みます)に変化はありましたか」(p=.170)。



自分で健康だと思えることと実際の健康状態には関連があるとされています。有意ではありませんでしたが、健康でない人が増え、健康だという人が減る傾向がみられました。運動しないという人も3回目は1回目の1.5倍になっていました。冬期間の運動や身体的健康の維持・増進は今後の課題になると思います。

3.結果-3)身体的健康に関する質問(2) 身体症状(複数回答)

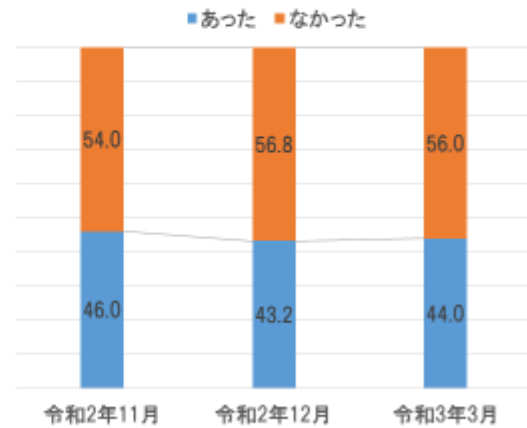
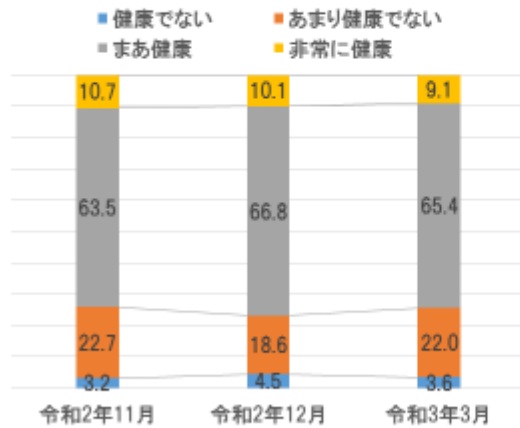


身体症状については、一人平均 2.6 個の選択がありました。多い順番については 3 回ともほぼ同じ傾向にありました。

3.結果-4)心理的健康に関する質問(1) 主観的健康観

「この1ヶ月間、ご自分の精神面は健康だと思いますか」(p=.672)。

「この1ヶ月間気分が沈んだり、憂うつな気持ちになったりすることがよくありましたか」(p=.660)。

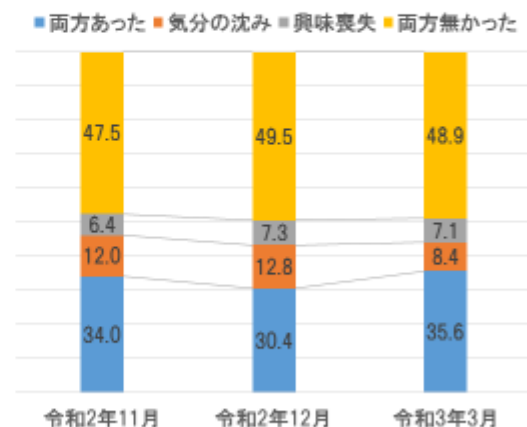
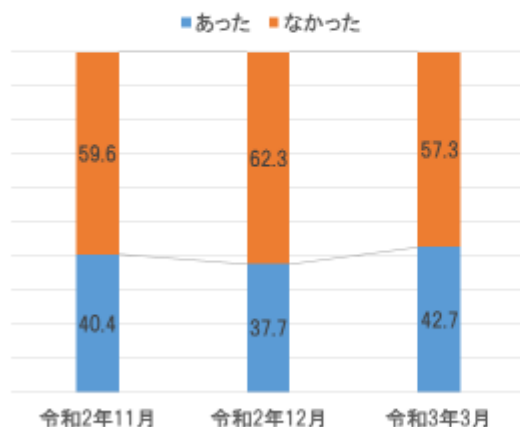


精神面の主観的健康観も身体面と同じように非常に健康は約1割程度で、逆に1/4は健康でない・あまり健康でないと回答していました。

3.結果-4)心理的健康に関する質問(2) 抑うつ状態

「この1ヶ月間、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか」(p=.392)。

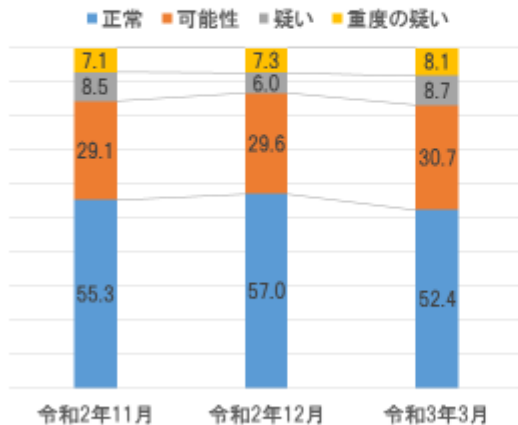
両方無かった人以外(どちらか1つでもあった人)は抑うつ状態にある可能性があると考えられます(p=.435)。



二つの質問で抑うつ状態にあるかを評価できる質問で、半数以上の人々が抑うつ状態にありました。1/3は両方の質問にあったと回答していました。多くの人が慢性的に抑うつ状態にあることが推察できる結果だと思います。

3.結果-4)心理的健康に関する質問(3) K6

K6(抑うつ尺度)の得点(p=.755)。

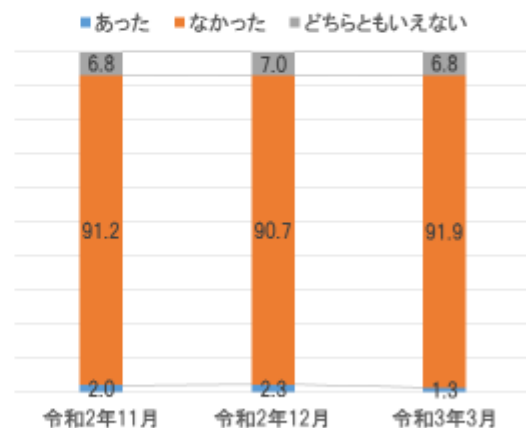
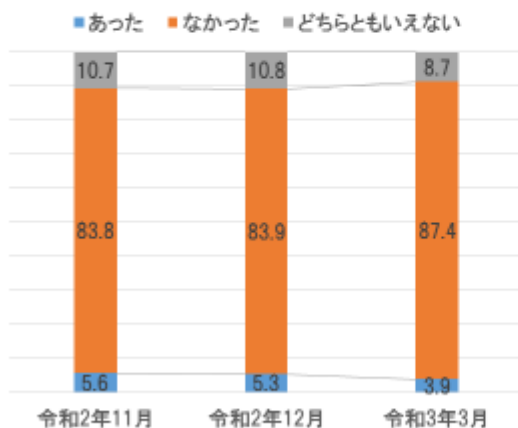


K6は「国民生活基礎調査」にも含まれている抑うつ尺度です。今回はカットオフ値で4群に分けて分析しました。半数以上の方が正常の範囲にありましたが、3割の方が何らかのうつや不安の問題がある可能性がある範囲に、うつ・不安障害が疑われる+重度のうつ・不安障害が疑われる範囲に約15%の方が該当していました。

3.結果-4)心理的健康に関する質問(4) 希死念慮・自殺念慮

「この1ヶ月間、死にたいと思ったことがありましたか」(p=.653)。

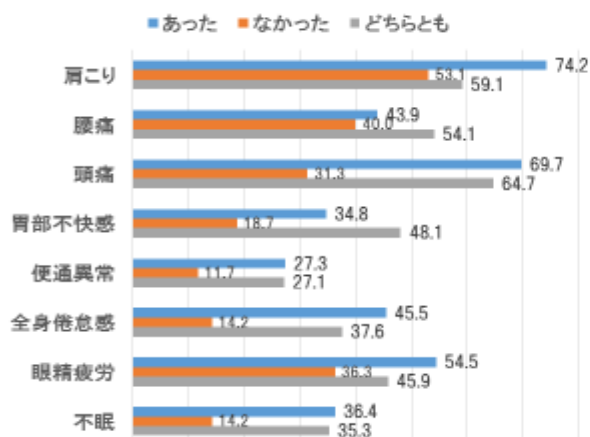
「この1ヶ月間、自殺することを考えたことがありましたか」(p=.916)。



約5%(20人に一人)が「死にたいと思った」ことがあり、約2%(50人に一人)が「自殺することを考えた」ことがあったと回答していました。

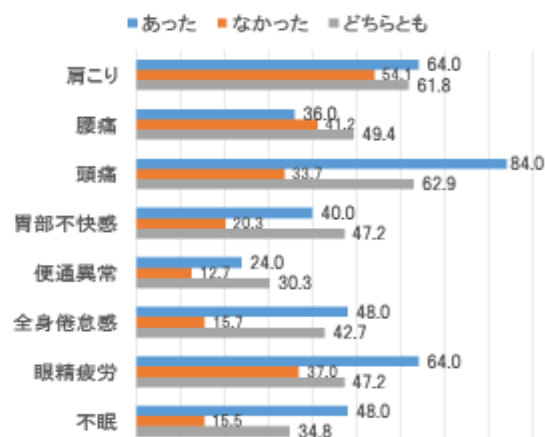
3.結果-4)心理的健康に関する質問(5) 希死・自殺念慮の関連要因

希死念慮と身体症状の関連(全て $p<.05$)。



自殺念慮と身体症状の関連

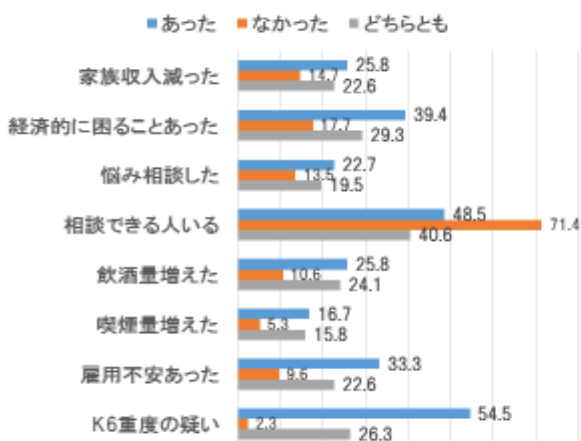
(肩こり・腰痛以外全て $p<0.05$)。



希死念慮や自殺念慮と身体症状とは関連がありました。自殺念慮と肩こり・腰痛以外は全て念慮があった人が多く訴えていました。希死念慮があったと回答した人は平均 4.0 個、なかったと回答した人は 2.4 個、そしてどちらともいえないと回答した人は 3.9 個選択していました。また自殺念慮があったと回答した人は平均 4.4 個、なかったと回答した人は 2.5 個、そしてどちらともいえないと回答した人は 3.9 個選択していました。このように身体症状は希死念慮・自殺念慮のサインとして注意していく必要があると思います。

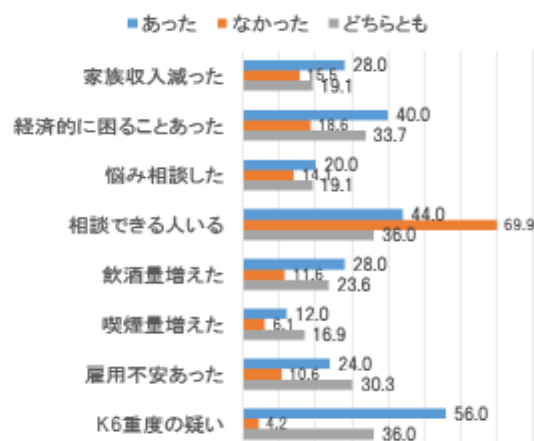
3.結果-4)心理的健康に関する質問(6) 希死・自殺念慮の関連要因

希死念慮と生活上の問題・K6の関連
(全て $p<.05$)。



自殺念慮と生活上の問題・K6の関連

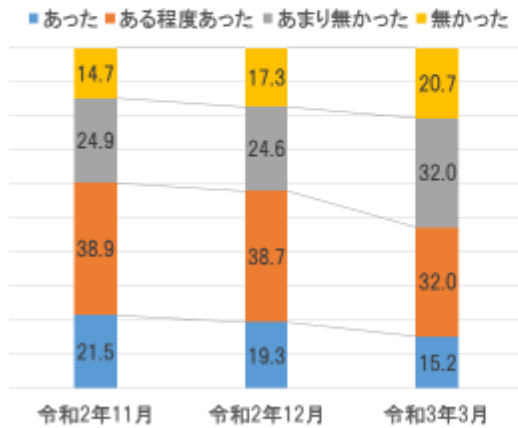
(家族収入減った・悩み相談した以外全て $p<0.05$)。



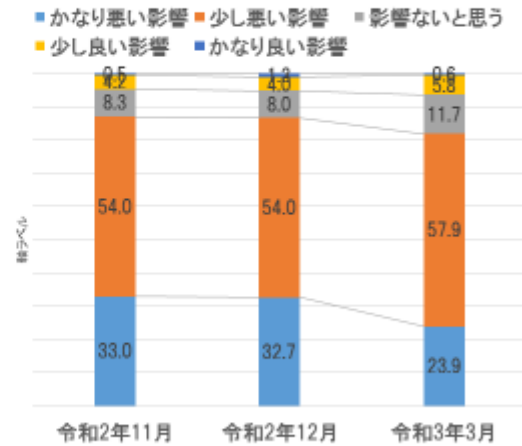
これらの項目も希死念慮や自殺念慮と関連していたことから、サインとして注意する必要があると思います。身体症状もこれらの項目も「どちらともいえない」と回答した人は「あった」に近い結果を示しています。自殺を防ぐためには「なかった」とはっきりと答えられることが大切だといえるかもしれません。

3.結果-5)新型コロナウイルス感染症に関する質問(1)

この1ヶ月間、あなたの生活に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか(p=.013)。



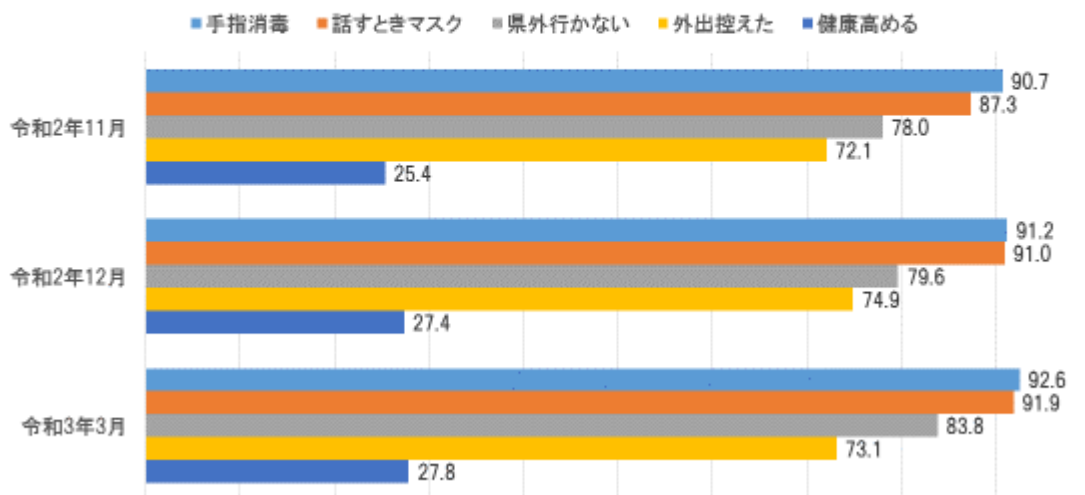
今後、新型コロナウイルスはあなたのお仕事にどのような影響を与えますか(p=.105)。



新型コロナウイルスの影響は1回目から3回目の調査にかけて有意に減少していました。一方で、今後への影響については、約1/3がかなり悪いと、半数以上が少し悪い影響を予測していました。

3.結果-5)新型コロナウイルス感染症に関する質問(2)

この1ヶ月間、あなたは新型コロナウイルスに対してどのような対策をとりましたか。(いくつでも)(いずれもp>.05)



新型コロナウイルス感染症への対策として手指消毒と話すときのマスクは9割前後の人が実施していました。反面健康を高めて免疫力をあげることに取り組んでいる人は約1/4程度でした。